

「地域貢献型キャリア教育」という夢と現実の狭間で見えてきたもの —— 興動館教育プログラムの事例より ——

梶 本 伸 悦*

1. 背景と目的

既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して「何か」を成し遂げることでできる力を備えた人材の育成を目指す興動館教育プログラムが始動してから一年以上が過ぎた。このプログラムでは、2007年6月現在で、15の興動館プロジェクトと24科目の興動館科目が設置され、合計約970名(プロジェクト学生数220名, 科目履修生750名)の学生が日夜活動を続けている。

本報告では、この実践的な人間力育成の教育プログラムをキャリア教育として位置づけた場合、どのような教育効果があるのかということ、興動館プロジェクトを事例に考察したいと考えている。特に本報告では、職場体験やインターンシップといった短期の体験学習としてのキャリア教育ではなく、1年以上の長期にわたって地域の社会貢献を行なう「社会貢献型キャリア教育」という視点から、教育効果を分析・考察したい。ちなみに本報告では、「社会貢献型キャリア教育」の定義を「学生自らが主体的に地域社会の貢献活動に取り組むことで、①働くことの意義など望ましい職業観や勤労観を育み、また②職業につながる知識や技能を身に付けるとともに、③人間力やプロジェクトに関する能力や態度を育成する教育である」とした。

※文部科学省は、キャリア教育の定義を「児童・生徒が自らの人生を歩む上で、体験的な活動などを通して、働くことの意義など望ましい職業観や勤労観を育み、また職業に関する知識や技能を身に付けるとともに、自己の個性を理解し、主体的に選択する能力・態度を育成する教育」としている。本報告で用いている社会貢献

* 広島経済大学経済学部講師

型キャリア教育は、この文部科学省のキャリア教育に基づいて定義した。

2. 研究方法

研究対象は、半年以上の活動経験がある4つの主催プロジェクトのメンバー81人（カフェ運営プロジェクト：32名 インドネシア国際貢献プロジェクト：7名 子どもを守ろうプロジェクト：32名 武田山町づくりプロジェクト：10名）である。特に、本報告では、半年以上活動したプロジェクトメンバーが提出する個人報告書の中の「プロジェクトを通して学んだこと」の項目の記述を分析することで、教育効果の内容を明らかにしたい。ちなみに本報告では、2006年12月に提出された報告書を研究対象とした。

3. プロジェクトの活動内容

各主催プロジェクト活動の活動実績を確認したい。各プロジェクトでは、毎週（プロジェクトによっては毎日）活動する以外にも、表1のようなイベントも開催している。どのプロジェクトも10以上のイベントの企画・運営に携わっている。また、日々の活動やイベントは、地域の学校、自治体、民間団体、家庭と連携した取り組みが多く見られるようになってきている。

各プロジェクトは、これら様々な活動やイベントを実施するための内部組織を作っており、メンバー一人ひとりがその役割を担っている。ちなみにカフェ運営プロジェクトでは、リーダーと副リーダーの下に、「商品開発部」「広報企画部」「経理部」「総務部」といった部署が配置され、メンバーがその業務を行なっている。そして、メンバーである学生たちは、これら日々の活動やイベントで、自らの役割を遂行し、

表1 主催プロジェクトの活動内容・イベント一覧

プロジェクト名	主な活動内容
カフェ運営プロジェクト	平日のカフェ運営、雑貨マーケット、ジャズコンサート、中東アジア交流会、シルバーアクセサリー講習会、イルミネーション点灯式、新宅ライブ、フリーマーケット、子ども会クリスマスパーティ、女性ネットワーク、ワールドカップ応援、オープンキャンパス、ダンス部結婚パーティ、ヒロランイベント、子育て応援イベント
インドネシア国際貢献プロジェクト	募金活動、事前調査、現地支援活動、興動祭、支援活動報告会、子育てイベント、大学祭、やる気じゃねっと青春じゃけん！ インドネシア商品学内販売、イルミネーション点灯式、国際平和フォーラム、米子松蔭高校での出前授業、事前調査、報告会、フラワーフェスティバル、弁当がら募金

子どもを守ろうプロジェクト	平日のガードボランティア，下校サポート，運動会の補助，「減らそう犯罪」安佐南区民大会，心豊かな家庭環境をつくる広島21シンポジウム，子育て応援イベント補助，ふれあい広場，『青少年の問題を考える』，06年末警戒出勤大会，祇園公民館祭りの補助，クリスマス会，節分のつどい，親父本気でいこう出演者懇親会
武田山町づくりプロジェクト	新入生歓迎登山，森林整備，プロジェクト武田山会議，祇園まちづくりプランプロジェクト会議，武田山フォーラム，「一学一山運動」参加，祇園小学校児童登山，イルミネーション点灯式，門松作成，高梁市森林ボランティア参加，活動報告会

仲間や地域住民と一緒に活動する中で，多くの人間的な成長を遂げていると考えられる。

4. 教育効果

興動館プロジェクトの教育効果を，「地域貢献型キャリア教育」の3つの視点からまとめたものが表2である。多くの学生は，それぞれの視点に該当する教育効果を報告しており，地域貢献型のキャリア教育としても一応の効果が期待できる。

特に報告書では，81名中18名の学生が地域住民の人たち（子どもや企業を含む）と一緒に活動することで，地域のネットワーク力やポテンシャル，社会人としての接し方，人とのコミュニケーションの仕方を学ぶことができたという報告もあり，地域住民や企業の人たちと触れ合う中での社会貢献の実践は，キャリア教育としても多くの可能性があるということがわかった。

表2 教育効果の分析結果

視点	内容
望ましい職業観や勤労観	プロ意識の向上，仕事への自発的な取組，責任感の向上，仕事の意義の認識，仕事に対する真摯な姿勢，社会ルールの認識，(13名)
職業に関する知識や技能	経理の仕方，管理能力，広報のノウハウ，接客能力，企画の方法，言葉遣い，マナー，パソコンの使い方，営業の流れ，社会常識，電話やファックスでの対応，社会人としての接し方，国際貿易に関する知識，イベントの仕方，運営能力 (25名)
人間力やプロジェクトに関する能力・態度	客観力，自己表現力，信頼関係，情報の共有・連絡，コミュニケーション力，協調性，人間関係，自己認識力，実践力，統率力，自己管理能力，行動力，相互理解，自己肯定感，共生力，チームワーク力，柔軟性，思いやりの心，前向きな考え方，情報伝達する姿勢，(62名)

5. 今後の課題

報告の最後に、興動館プロジェクトを一つの教育課程、特に「社会貢献型キャリア教育」の一環として位置づけるならば、今後どのような課題が考えられるのかということに触れてみたい。また、報告後の議論では、興動館プロジェクトと興動館科目の連携の可能性や、プロジェクトからプログラムへ、プログラムからカリキュラムへと教育課程を帰納法的に組んでいくというアイデアについても議論されたことをつけ加えておきたい。

① 社会から求められる社会科学系学生の知識・技能の明確化

キャリア教育の最終的な段階として就職ということがある。学生が希望した職業に就けるかどうかということは、社会や企業が期待している職業観や勤労観、知識や技能、そして人間力やプロジェクト能力を身に付けているのかということになる。それゆえ、社会や企業では社会科学系の学生に何を求めているのかということさらには明確にするとともに、プロジェクトを企画・運営する中でも、確実にそれらの項目を身につけていけるような取り組みが必要になってくる。特に、知識や技能は、他の項目と比較すると、より客観的に評価でき、かつ将来の職業生活に結びつく可能性が高いので、一層積極的に取り組むべきであると考えられる。

② 経験の蓄積

現在のプロジェクトは、学生や教職員が多くの困難にぶつかって、それを一つずつ解決しながら前に進んでいる。しかし、これらの経験は、プロジェクト内や個人内に留められており、プロジェクト間で共有化されていないのが現状である。今後は、このような貴重な経験を総括・蓄積・共有化することで、プロジェクトに参加した学生が効率的・漸次的に能力を身につけていけるような体系を確立していく必要がある。具体的には、いくつかの分野（例えば、社会人としてのマナー、会計処理、海外渡航の仕方、国際貿易）を総括してノウハウ本にし、必要な学生はいつでも閲覧可能にするといったことも考えられる。また、定期的にプロジェクトメンバーが集まって、各分野の研修を共同で受けたり、議論を重ねていくことも有効であろう。

③ 地域連携の方向性の提示

近年、公共性が高い大学という組織は、社会的責務や社会連携が多く求められて

きている。物的・人的資源を保有する興動館は、社会連携の拠点としての可能性が高く、キャリア教育のプログラムとしても効果的である。問題は、どうすればこの新しい教育プログラムが地域で根つき、持続できるかということである。そのためには興動館が地域と連携しながら、どのような社会的な課題解決のためのミッション（使命）を果たしていくのかという方向性を打ち出すことも必要であろう。